

# 圭陵会FAXニュース

発行所：岩手医科大学圭陵会  
 発行人：石川 育成 編集人：酒井 明夫  
 連絡先：TEL 019-624-8386 FAX 019-624-8380  
 E-mail: info@keiryokai.gr.jp

## 第13号内容

- ・ 医の知識結集 防災ガイド
- ・ 岩手医大の学生有志24人が発行
- ・ 用語の分かりやすさ
- ・ 歯科医らと患者にズレ
- ・ 岩手医大5年 峯田さんが調査

岩手日報 H23. 9. 17



防災ガイドブックを発行した岩手医大の学生有志

## 医の知識結集 防災ガイド

### 岩手医大 学生有志24人が発行

岩手医大の学生有志を受け、災害時に役立つ  
 は東日本大震災の発生一ヶ月医療情報などを掲載

した防災ガイドブックを発行した。医学部と歯学部、薬学部の学生が知識を結集。全学生に配布するほか同医大の施設や公的機関などに置き、広く県民に役立ててもらおう。

ガイドブックはA5判35頁で5千部発行。地震・津波発生時の対処法や避難所での衛生管理、感染症対策などを分かりやすく説明している。

エコノミークラス症候群の予防法や、水が少ない状態での歯磨き方法などを複数の写真で紹介。緊急時の公共機関の連絡先なども記載した。

山口英美さん(薬学部5年)が発案。学部・学年を超えた有志24人が4月から約半年かけ、執筆、編集に取り組んだ。各学部の学部長ら教職員が指導監督を行った。

山口さんは「被災した人たちのために学生の立場で何ができるか考え、長く役立てられるガイドブックを作成した」と思いを語り、原稿を執筆した小野寺聖子さん(薬学部4年)は「3学部それぞれの特徴を生かすよう心掛けた」と作業を振り返る。

ガイドブックの問い合わせは同医大事務課(019・6551・5110、内線55105513)へ。

日本歯科新聞 H23. 9. 13

用語の分かりやすさ

# 歯科医らと患者にズレ

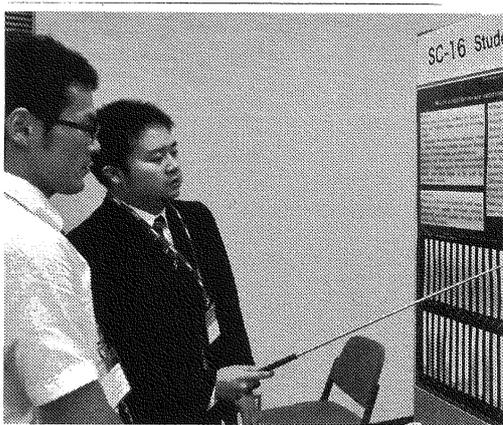
## 岩手医大 5年生 峯田さんが調査

患者とのインフォームド・コンセントの重要性は浸透しているが、あなたが思う平易な言葉と、実際に患者が理解している言葉はマッチしているだろうか。極力専門用語を使用しないことを教えられている岩手医科大学歯学部5年の峯田武典さんは、「医療面接の実習では、学生は診断よりも専門用語を使わないことに心を砕きがち」とこの視点から、社会に普及している用語を調査。「齶蝕」や「スケーリング」など、歯科医師・学生が認知度の高いと感じている用語がほとんど知られていないなど、専門家と社会の間で認識のズレがあることを浮き彫りにした。同研究は8月19日に東京・市谷の歯科医師会館で開かれたSCRP日本選抜大会で発表されたもの。

調査では、岩手医科大学歯科医療センターの外来患者216人、歯科医師117人、臨床実習中の歯科学生61人を対象に40項目の歯科用語に対するアンケートを実施。患者には用語の認知度を、歯科医師・学生には「一般的に知られている」と思うかについて質問。対象グループ間の分布の差をカイ二乗検定で検討し、割合の多重比較テストはフイアン法を用いた。

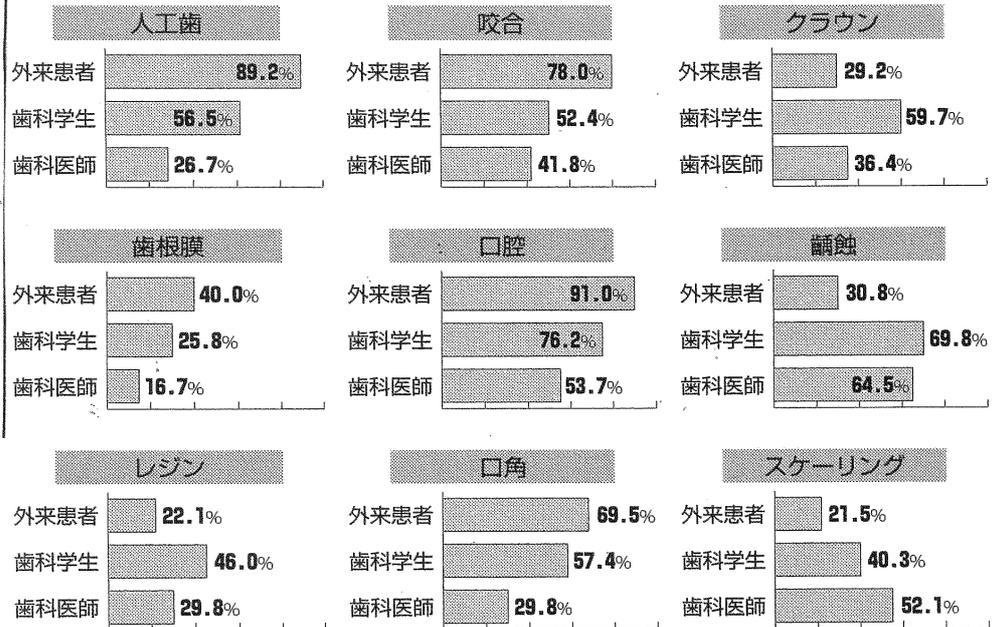
外来患者の認知度が最も高かったのは「歯周病」で99.5%、次いで「乳歯」99.0%、「抜歯」97.7%などが多い。一方、最も低かったのは「TEK」の10.4%、次いで「仮封」10.8%、「クラスプ」10.9%の順。峯田さんは、補綴や歯科材料の単語より口腔保健用語の方が知られていたと考察している。さらに同じ意味の単語の認知度を比較した結果では、「糸切り歯」と「犬歯」は同じ94.4%だった。が、「歯垢」と「プラーク」はそれぞれ97.2%、85.3%と若干の差が見られた。

認識のズレを確認するカイ二乗検定では、40用語中、22用語で統計的に有意差を確認。「齶蝕」や「スケーリング」は、歯科医師・学生が認知度が高いと考えていたものの、患者がほとんど知らなかった。反対に「口腔」や「口角」は患者の認知度が予想を上回った。



SCRP日本選抜大会でポスター発表する峯田さん

患者の用語認知度と専門家の認知度予測



※外来患者は用語を知っている割合。歯科学生と歯科医師は用語が一般的に「知られている」と思っている割合

**圭陵会FAXニュース**  
 圭陵会ホームページよりPDF形式でダウンロード頂けます。  
 ■圭陵会ホームページアドレス <http://www.keiryokai.gr.jp>